

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

資料 6

平成29年12月25日

協議会名:みやま市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート ・福祉バス利用者調査 ・路線バス利用者調査 ・主要施設管理者アンケート ・主要施設利用者聞き取り調査 ・高校1年生アンケート ・駅利用者アクセス特性調査 <p>【結果概要】</p> <p>市民アンケートは4,000人に対し、市民の日常的な外出・移動の状況や現在の公共交通に対する評価などを調査。回収率52.6%。通勤者の約9割、買物では約8割、通院では約7割が自家用車での移動、また、公共交通サービスに対しては4割～5割の人が低評価という回答結果となった。このことから、日頃、公共交通を利用しないためあまり関心がないという現状が明らかになった。</p> <p>その他の調査結果も踏まえ、課題、基本方針などを協議会で検討し、地域公共交通網形成計画として取りまとめる。</p>	<p>A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>1. 事業名 地域公共交通調査事業(計画策定事業)</p> <p>2. 事業内容 地域公共交通網形成計画策定</p> <p>3. 実施時期 平成30年3月</p> <p>4. 計画策定の方針 市民の移動特性からの課題や公共交通に対する評価からの課題などを十分踏まえ、4つの基本方針、目標、目標を達成するための施策、推進体制など盛り込んだ計画策定を行う。</p> <p>なお、平成30年度確保維持事業(地域内フィーダー系統)の活用を見込んでいる。</p>

調査事業の概要

【調査エリアの概要】

本市は福岡県の南端に位置し、熊本県と接する地域である。市の東部は山地、西部は海に面し中央は平坦な田園地帯が広がっている。また、毎年約500人の人口減少が続いており、平成26年4月には市内全域が過疎地域に指定される。

【調査事業の主な内容】

- ・市民アンケート
地域公共交通が抱える問題点・課題の把握。4000人無作為調査。回収率52.6%。
- ・福祉バス利用者調査
利用実態及び問題点課題の把握。240人調査。
- ・路線バス利用者調査
路線バス利用実態の把握。アンケート回収113票、聞き取り調査 134 票。
- ・主要施設管理者アンケート
市民の移動特性や市外からの来訪の有無の把握。



上記の調査により課題を明らかにし、将来にわたり市民の生活や域内の移動を支え、地域活性化に寄与する持続可能な公共交通体系構築に向けて、地域公共交通網形成計画を策定する。また、策定にあたっては、上位計画である総合計画等を踏まえるものとする。

参考資料

- ・総合計画
- ・都市計画マスタープラン

基礎データ

合併状況：平成19年1月に瀬高町、山川町、高田町が合併
 人口：38,104人（平成29年10月在）
 面積：105.21km²
 過疎地域等指定：過疎
 高齢化率：35.7%
 自治体負担額：H29：5,184千円
 協議会開催数：協議会5回

調査前の地域交通状況(Before)

本市の公共交通は、市内にJR鹿児島本線が3駅、西鉄が2駅ある。また本市と隣接する柳川市を結ぶ路線バスとして堀川バスが1路線（瀬高柳川線）運行している。しかし、年々利用者は減少傾向にあり、特に路線バスは赤字運行が続いている。また、福祉バスを運行しているが、高齢者などに利用が限られている。

本事業で、市内4,000人を対象に市民アンケートを行い日常的な外出や移動の状況を質問したところ、通勤者の約9割、買物では約8割、通院では約7割が自家用車での移動をしているという結果となった。また、また、市内の公共交通サービスについては、4割から5割の市民は低い評価をしていることが明らかになった。

調査後の地域交通計画(After)

調査結果により、まちづくりの観点、移動特性、公共交通に対する評価などの課題を踏まえ、将来像、基本方針、目標、目標を達成するための施策の設定を行い、将来にわたり持続可能な地域公共交通体系の構築を目指す。また、施策の推進にあたっては、市民、交通事業者、行政の連携・協働によって、より良い地域公共交通への改善に向け取り組む。

